



社会福祉法人 薄光会 広報紙

HAKUKOUKAI



♪ 旅ゆけばあ～ ♪

第30号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成25年2月28日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしづく : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3
ケアホーム COCO TEL 0439-67-3711

豊岡光生園 : 〒299-1742 千葉県富津市豊岡3535-1
相談支援センター天羽 0439-68-1711
0439-68-1833

三芳光陽園 : 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280
鴨川ひかり学園 : 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297 0470-36-3211

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18 04-7099-3311
0439-70-6551

風と語りう



相談支援センター天羽の「こと」

相談支援センター天羽は、

平成二十一年七月一日に開設され、
今年七月には五年目になります。

何をやっているのか、何を目的に活動しているのか説明がしつらしく、日々歯がゆさを感じていますので、その一端だけでもお知らせできればと思います。

一つには、法人内での機能です。
社会福祉法人薄光会は、子どもからお年寄りまでの方々にご利用いただいています。基本的には、ひとつの事業所や施設を利用していくだけで、皆さまの生活の支えや楽しみの面などで、お役に立っているかと思いますが、ときに、ふたつの事業所のそれぞれの役割を合わせて使いことで、少し複雑な問題を解決していく、そういう利用もあります。事業所同士が協力し合つとうことです。また、「家族と法人・事業所がひとつの中になつて、「問題の性質」を共に理解し合つて取り組む必要があるときは、そのチームの「壁」の役（調整・つなぎ役）として働きます。

二つには、法人の外での仕事です。
「相談支援事業」と一口に言つても、今の制度はけつこう複雑です。その仕事に携わる者であり、自分が見るべき方向や、手をつけている事柄の幅や深さなどを、常に意識して考えていないと、大切なことを見失つた

り、後先を間違えたりしてしまいがちです。

* * *

さて、相談支援センター天羽は、平成二十四年四月より、富津市役所内に相談室を開設しました。「こじを詰所にしています。訪問などの予定がない場合には週三日〔月〕〔木〕〔金〕は必ずこの相談室に詰め、飛び込みの案件や急を要する対応にも応じられるようになってきました。
少し難しい用語になりますが、相談室で行われる仕事を紹介してみましょう。つまの三つです。

① 「指定一般・特定・障害児相談支援事業」

障害福祉サービスを実際に利用するときには、具体的な提案をします。「サービス等利用計画・障害児支援利用計画」というものを作成し、関連する行政手続きをお手伝いします。「家族や関係機関の総合的な橋渡しもします。

② 「相談支援事業（富津市委託）」

お話を伺いつことは、相談支援の基本です。既存のサービスが希望のおり利用きないとあるあります。その場合は、長い期間かかわって見守り支援をします。行政とも繋がりをつけます。

③ 「富津市障害者自立支援協議会・事務局」

これは、富津市が一部委託しているもので、「富

法人の内から外まで、田の前の人を大切にすることから、地域のシステムづくりまで、仕事は幅広いですが、肝に銘じたのは、「一つの相談支援事業所では何もできない」とことじと、それから、「困った現実を夢中になつて解決していくこと」が、必ずしも求められてはいないことじとです。

本来、当事者自身、「家族自身、そして支援者自身に問題を解決する力（ストレングス）が隠れています。その潜在能力を自覚して大切にし、結び付け、大きな推進力を作り出すこと（エフパワメンント）、これを促進することじと、相談支援センター天羽の役割ではなかろうか」と思います。

産み出された問題解決のための推進力に、自分も重要な位置で関わっているのだという自覚は、目標すべき一つの到達点なのではないかと考えています。

「相談支援センター天羽が関わると、関わった皆さまが元気になる。夢や希望や勇気が持てる。」そう語つてもうりえる仕事をしたい、そう思っています。

相談支援という仕事は、人と人、人と環境、人と場面との潤滑油のような仕事だととも考えていますので、相談支援センター天羽の関わりの後には、滑りかさと安定感・躍動感をお土産にできればと思っています。

（大森）



ひかり通信

やういえば「写真グループ」という名前が付けられていたのに、今年度は活動中に写真を一枚も撮つた記憶が無いような…。

来年度こそ、このメンバーの笑顔をたくさん写真に残せたらいいなと思う。

「写真グループは…改名しないとい。」



「今日はどうに行こつかあ？」

新川さんの「」の一言から始まり、その声に賛同するかの様にグループのメンバーが集まつてくる。時には他のグループに所属する人の飛び入り参加も。

これは水曜日の午後の写真グループのひとコマである。いつの間にか活動内容が主にバスでの外出になってしまった。

「どうに行こつかあ？」

バスに乗つてからまたこの言葉が…。毎回リクエストがたくさん出るのだが、近い場所から遠い場所と、いつも意見がまとまりず、バスの中で数分経過することも…。実は、こんな話し合いをしている時間もまた楽しいひとときだと感じる。

鴨川には古くから伝わる枝豆の在来種で「鴨川七里」があります。この枝豆は「香り、七里に広がる」と言われ、芳醇な甘みと香りが特徴です。

その「鴨川七里」を使ったアイデア料理を募集した「鴨川七里料理コンテスト」が開催され、約七十作品の中から鴨川ひかり学園が出品した「和風ティップソース」が見事「優秀賞」に輝きました。

枝豆をキサーや野菜スティックにかけ、生クリームと白味噌を混ぜた品で、濃厚な味わいと枝豆の風味がバツチリ！



(市)



祝 成人～水谷早由里さんおめでとう～



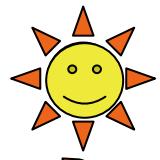
成人の日を迎えることができ、本当に嬉しく思います。

「よく、ここまで来れたなあ…」といろんなことを思い出します。
今こうして元気でいられる事に感謝するとともに、これからも毎日楽しく、笑顔で過ごせる事を願っています。

母より



太陽のしづく



太公望の開眼

ジョブチーム「サイクルリ」へと転職された遠藤光信さんは、最初の頃はサイクルリの先輩たちを意識してか、いつもの賑やかさが影をひそめたようなお仕事ぶりでしたが、この間、お仕事の工程が変わったのを機に自らの力を発揮し始めました。空き缶をアルミ缶とスチール缶に分別する作業が加わり、磁石を付けたつり竿でスチール缶を釣り上げ分別するのです。これを始めてからといつも、このお仕事がとても楽しくなったようで、いつも一番に位置に着か、釣り上げてはいつもの大きな声を出しつづけていました。



声を出し、顔を崩して大笑い。それからはハマってしまって、光信さんが釣った空き缶を次々と分別カゴへ手で取つては投入するようになりました。光信さんの持つているパワーは、まわりの方達も引き寄せるパワーで凄いと思いました。



「ウシイシイ」と安心してか、「ウシイシイ」と安心してか、いつもの賑やかさが影をひそめたようなお仕事ぶりでしたが、この間、お仕事の工程が変わったのを機に自らの力を発揮し始めました。空き缶をアルミ缶とスチール缶に分別する作業が加わり、磁石を付けたつり竿でスチール缶を釣り上げ分別するのです。これを始めてからといつも、このお仕事がとても楽しくなったようで、いつも一番に位置に着か、釣り上げてはいつもの大きな声を出しつづけていました。

「バアー」「バアー」

と喜ぶものだから、周りにいる仲間達、

(えっ、そんなに楽しいの?)

じ、光信さんにつられて

(空き缶釣りやりたい!)

じ、今井さんや友大さんや穂村

さんらが続々集結。もう一人、

空き缶などまったく興味無く、

近くにも寄りつかなかつた三夫さんは、釣つた空き缶を力こぶに振るい落とすとじつと竿と格闘しこらへ



青年よ、共に歩もう



鈴木百合子

私は、昨年四月より太陽のしづくでお仕事させていただいて十か月になります。自宅から太陽のしづくに、おじいじに来る利用者さんとの送迎をしていました。

今年度から、十九歳の青年が太陽のしづくを利用するようになりました。結構利かん氣で、陽気な青年です。迎えに行くと玄関でお母さん

「〇〇君たっちして」と何度も言われています。

彼は、すこし歩行が不安などいわがあります。お母さんは両手を引っ張りますが、彼は頭を振つて動きません。そこで、私はお母さんと代わり、彼の手を握り、「〇〇君、行こうか」と声をかけねど、すんなりと立たず、自分で車に乗つてくれ

ました。(タイミングが良かつたのかな。)

そう、思いました。後で、お母さんが支援員に、「あの人上手ですね」とおっしゃっていたと聞き、私は大変嬉しく、この仕事のやりがいなのだなと大きな喜びでした。それ以来、彼は素直に立ち、嬉しそうに車に乗つてくれます。ほんの少しの気づかいや声かけで楽しくお仕事ができ、そのことを楽しみに送迎をしております。 鈴木 五男

成 人 おめでとうございます

人生の節目ですね。お父さん、お母さんに感謝ですね。お父さん、お母さんはあなたが誇りですし、元気の源だと思います。香子さん、直人さん、いろいろなことをいつぱい経験して乐しくやりましょう。

(ちょっと先輩の佐保田)

このたび、中山馬主協会様より、百一十五万円の助成を頂き、送迎車両を整備しました。利用者のために大切に使用させて頂きます。

このたび、NHK歳末たすけあい事業により、十五万円の助成を頂き、事業室H.A.Cコンを整備しました。

園だより

『毎々「タタタ」したけれど…』

『最近の生活』

思います。

ストレスで爆発しそうな利用者
や人の思いを受け止め、やつぱな
気分転換を促して寄り添う。言葉
はこらない。ただ一緒にいるだけで
気持ちが伝わる。そう感じます。

わしかしたら、この工事開始の状況は、私たち職員
が試されるめったにない機会なのかもしません。

「もうしたり素敵な暮らしができるね。」

春の息吹を待ちわびる毎日が続いている。新たな一步
を踏みしめるときですが、いま、利用者さんの生活は、
いっぺんに変わっています。光生園のコニコーアル
工事がといつといつ始まつたからです。

第一期工事の開始で、園舎の半分で生活することにな
ったものですから、人口密度が高くなつた分、何やう学
校の部活動の強化合宿のような雰囲気です。熱気はたく
さんあるのですが、週1回安いからといつと決してそういう
はなく…、お部屋を間違えたりの混乱もあるのです。

でも、利用者さんは、思ひのほか、この現実を理解し、
受け入れてくれていて、柔軟に生活してこらつしゃるよ
うです。あとで、これから先を見通してこらつしゃるよ
う振る舞つてこられるのです。(このへうこの事、乗つ切れなく
てどうかねー) と、不安を抱く私の気持ちに喝を入れ
て励ましてくれてこられるように感じます。

『引越し』

人は、とやうお見方を変えたほうが良
いようだす。狭い中で暮らすところのせ、
悪い事ばかりじゃない。利用者さんとの
距離がえりへ縮もら、関わりも深くなる。

氣づきにくかった利用者さんの心の壁、
氣持の微妙な変化、氣づかぬ。もつ



の「疎開」のよい。おお第一期工事のハケ月間、園舎
の真ん中のフレイルームから東半分のスペースでの暮
らしになれる。

利用者さんの不安や懸念を予測して、職員は何度も
何度も話しあって半年をかけて準備してきた。安心し、
そして丁寧に。だから、職員は、もうといの緊張してい
ます。こまか。

利用者さんたちは、職員の緊張をよれに、環境の変
化に柔軟に対応して、大きな混乱もなく週1回こら
よう見えた。全体としては。

でも、あがつた。こんな大移動に年齢なほあがなつ。
利用者さんとなんでも話し、馬鹿な事して笑い、悲し
いなつて泣く。ぶつかって喧嘩して、肩組んで喜び
合う。あたりまえの生活の中で培つた信頼関係。こま、
それが試されてるのだと感じます。

リニコーアル工事、コニシットへの光生園の改築・改
造は、ただ外見が良くなつことじゃないと思います。
私たち職員と利用者さんとの関わりの深さ、「信頼関
係」という内面をリニコーアルするのだと感じるので
す。内面がもっともっと素敵になるよつて、利用者さ
んの最高の笑顔あふれる暮らしのために、私は、傍り
でわづかなく寄り添つて支えてこられたと感じます。

(なんでお部屋を変えたんだ?) 抗議!

(ぼくは、なつこしてうなづいたから)
朝食が済んで、「おこりどり」に出かける時間なのに、穂
苅さんたら元のお部屋で一休み。

(ぼくは、なつこしてうなづいたから)
土曜と日曜は、姿が見えない穂苅さん、やつぱり元の
お部屋でくつわってこらね。

そつだよねえ、誰でもやつたけひ、お部屋が変わること
は大きすこと。
「おんなじ。穂苅さん。やつこしてよ。

新しい生活、「七つのコニシットの暮らし」に向かうの大
きな一步。色々工夫しながら樂しみながら一日一日を
過ごしてこまよひ。

春が来て、また次の春の兆しが感じられる頃まで、長
いけど、お願いしますね。皆さん。 織田 千春

去年暮れの大きな出来事の一つとしては、なんとい
つても引越しではないかと思います。

*

*

*

十一月十七日、光生園のリニコーアルの工事に向け
て慌ただしく行なつたお部屋の引っ越し。あとで戦火

学園新聞

新着

「声を聞かせて」

とおゆの口のおやつの時間のことでした。

園ではあまり喋らなかったりましたが、私の方を向いて一言、「みずのむ」と叫みました。

職員の中にも、おりしゃらんの趣を初めて聞く人はいたので、その口はあまりしゃらんのことが職員の間で少し話題になりました。

「みずのむ」それはたった一言です。それでもまじしゃらんの言葉を一度も聞いたことがなかった私としては、この出来事は大好きな前進を感じました。また、湊ひかり学園にはしゃらんといつ、まりしゃらんのように、園では話して下せらない方が居ます。

こじしゃらんは入園当初は職員に拘らず、声を出して話していたこともあるのですが、現在、園では全く話をしません。私は以前より彼の声を一度は聞きたないと考えていました。そのため、時間があれば色々と声をかけたり、驚かせたり、体をくすぐったりしていましたが、一言も声を発してはくれませんでした。

でした。

それでも、今年こじしゃらんは一言だけもここでの声を聞かせていただけませんか。

じ、思っていたのです。



なんとかしゃらんとしよう。

(大木)



この春、放課後等イサービスを巣立つて行く七名の皆さんに「卒業証書」を贈りたいと思います。

「卒業証書」

たけし殿

あなたは、歌う事が何よりも大好きでボールペンをマイク代わりにして、元気に頑ってくれましたね。

ゆう殿

あなたは、歩行練習になると、宝物であるピンクの車椅子の事が心配でこつむ探していましたね。

けいすけ殿

あなたは創作活動が大好きで、カバンから自分の色鉛筆を持ち出して、得意気に取り組んでいましたね。

職員のとしゃらんとの話をしていたところ、「今年の初めの寒い日に、くしゃみをしてましたよ。『ハクションっー』て大きな声で」

職員のとしゃらんとの話をしていたところ、「あなたのダンス、リズム感、そして…時にはお友達を待たせてしまふ事もあったけど、着替えを一生けんめいたたむ姿は、とても素敵でした。

あなたの笑顔、笑顔で場の雰囲気を盛り上げて、周りのみんなに元気をくれるあなたはマーチメーカーでした。

ひさいた殿

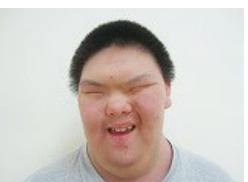
あなたのあまのじやくな行動に困つてしまつた時もあったけど、それをいつの間にか笑いに変えられる不思議な魅力がありました。

たかひひ殿

あなたのあまのじやくな行動に困つてしまつた時もあったけど、それをいつの間にか笑いに変えられる不思議な魅力がありました。

ひづけ殿

あなたがおめでとうしゃらんです。それぞれ違う道を歩んでも、これから通るあなたの方の道に、また新しい"ひ・か・り"を照りして下さい。



光 陽

『ひょっとして…芸術家…かも?』

日々のふれあいの中で、「ひょっとして、」の
方、芸術家なのかも…?」と、感じられる瞬間
があります。皆様は、どう思われますか。

徳さんが作られた詩（？）です。（自筆）



三芳光陽園からのレポートでした。

ほんとうの神
さまは人がいませ
神さまは人間
もつくりました
女の人が男の人も
つくりました 魚も
つくりました どうぶつ
つくりました フブリ
してくぶつも フブリ
いた こんちうも
つくりました
20円くびさり



児童デイサービスの利用がきっかけとなり、あれから六年…
また戻って来られた貴善さんの人生の節目について立ち会えた事をとてもうれしく思います。
もうぞこれからも元気にして、樂しへ、毎日を過ごして下さるでしょう。

「！」成人おめでとう！」ぞいいます」

coco

de

coco



『にわにわあつたけど…』

ケアホームCOCOを始めて丸六年。

先日、六年ごとに行う事業申請を済ませました。いろいろありましたが、COCOを始める際に、言われた二つの言葉がありました。

一つは、保護者会でケアホームの説明を終えたとき、言われました。

「東京都のまわし者じやないのか」



もうひとつは、ケアホームに入居が決まった方の保護者からの本音の言葉。

「うちの子は島流しか~。」

障がい福祉の制度が大きく変わり、

これからどうなるのだろうという不安なときに、施設から出なければならない、実感もわからず、手塩にかけた施設から、「な、なんぞ?」。

こま思えば、本人もやうだつたじょのが、保護者も気が氣ではなかったのでしょうか。

地域の中で、地域の方と関わらながら生きていいく。簡単なようでなかなか難しい。

六年という田野は、地域の方や保護者や本人の心をくじこむは融かしてくれたでしょうか。

井上 利昭



エリザベス女王にあえたかな?



アラビアのロレンズ♪

『みんなの旅』

去年の十一月から十一月にかけて一泊旅行に出かけました。行き先はみんなに選んでもらつて(ホーム)ではなく、五、六人のグループで行きました。

行き先は、

- ①草津温泉と懐の縫ぬし
- ②川治温泉と宇都宮餃子と

東武ワールドスクエアー

③高尾山と横浜中華街

④ティーズーランドと東京スカイツリー

みんなの旅行の様子は、写真で紹介します。



湯畠にて



げんこつマイタケかぶりつき!

あまりの大きさに手づかみだ~

さすが日本一の急こう配だわ
高尾山ケーブルカー



ハニーハントに乗って満悦



ディズニーランドにて

集合写真!!

1人写真から外れようと…

お願いいたします。
▼本紙『あらぬき』も、薄光会の新たな歩みや芽生えを綴っていきます。
▼本年もよろしく



【編集後記】

▼今年は巳年。節分も過ぎて春の兆しと雪空ともやに三寒四温。▼「巳」とこの字は、胎児を表した象形文字で、冬眠の蛇が地上に現出す姿を表し、「起る、始まる、定まる」などの意味があります。

▼本紙『あらぬき』も、薄光会の新たな歩みや芽生えを綴っていきます。